

平成30年4月23日

助成事業実施報告書

団体名 NPO法人MAIKEN

代表者・役職名 氏名 理事長 三浦左千夫

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

定住外国人児童に対する母国語教育と、親世代への日本語習得支援

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

本法人は南米の文化遺産保護研究および経済困窮児童を支援する事業や、在日ラテンアメリカ人の医療や文化教育など生活全般の支援、日本国民と南米諸国民との相互理解を促進し、地域住民と南米諸国民との友好と親善に寄与することを目的とするために設立された団体です。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

在日外国人の親世代と子供世代とが、母国語で複雑なコミュニケーションが取れなくなっているという状況が起きています。親の世代は、日ごろの生活や仕事が大変で子供に母国語の文化や言葉を教える余裕がなく、日本語の能力も不十分なままです。反面、子供世代は日本の学校で学び、母国語を学ぶ機会がないまま成長してしまうため、親子間でのすれ違いが起きてしまいます。そのため親世代からは子供に母国語を教えてほしいという願いと、親世代も日本語を学びたいという希望があることから、日本語とポルトガル語の教室を開催しました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

ポルトガル語講座は、井上アメリカと、伊東ジョージ医師の2名が担当し、文法事項の説明、会話練習や作文を通してコミュニケーション能力を高めるとともに、病院で使える日本語の練習をしました。

日本語講座では、元高校国語教師の村田修二と井上アメリカが担当し、日本語能力試験のN3レベルの日常的な場面で使われる日本語をある程度理解できる段階を目指しました。新聞の見出しなどから情報の概要を掴むことができる、学校文章等を読んで理解することができるなど、現実の生活の場面に即した授業を行いました。

感染症予防の講演会は、医療専門家を招き、外国と日本の習慣の違いを詳しく説明し、日常生活でできる予防方法を解説しました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

日本語講座・ポルトガル語講座全 10 回実施(11 月～3 月末まで随時開催)し、延べ 50 名の参加者がありました。日本語講座では、日本語能力検定 N3・N4 レベルの合格を目的として授業を行い今年度の試験合格を目指します。ポルトガル語講座では、日常生活では会話に不自由はないものの正確な文法や単語が書けないなどという基本的な学力不足であるという事実が見えてきました。今後日系四世のビザが解禁され、日本と現地日系社会の結びつきを強める懸け橋となる日系四世受け入れサポーターの人材育成が必要となります。今回のプロジェクトにより、受講生がこの懸け橋の一端を担い、社会に貢献できる人材になれるという社会的効果が達成できました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

過去 3 年間の日本語講座を通じ、本当に支援の必要な定住外国人は日々の生活に追われ、日本語教室に来る時間も余裕もないことが見えてきました。特に工場労働者は、かつては年単位での雇用契約を結ぶことができましたが、近年では3か月ごとなどの短期契約しか締結できず、一度職を離れると、国民健康保険にすぐに加わらずにそのまま無保険者になってしまうという現実があります。これまで栄養指導を受けたことはなく、成人病を予防することの必要性を感じていない人が多いです。そのため、結果的に重篤化してから病院にかかることとなり、社会コストの増加の一因となってしまいます。外国人医師が彼らの母国語で、生活習慣病が予防方法の講演会を通じて、予防医学と健康保険の必要性を説明し、その後希望者には現在の状況を知るために血液検査をすることで、現状を把握してもらい、健全な社会の一員としての責任を果たせることを目的とします。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし

今すぐできる感染症対策とは？

日本語・ポルトガル語による

感染症対策セミナー



～外国語が話せなくても 外国人とのコミュニケーションの取り方の
わかりやすい解説 希望者にはポルトガル語ワンポイントレッスン有～

13:30～14:30 (三浦)

国内医療関係者向け感染
症対策の必要性とは？

14:45～15:00 (岩本)

医療現場で外国人とのコミ
ュニケーションの取り方

15:15～16:00 (Dr. Ito)

Sintomas do Norovirus, medidas
preventivas e tratamento

ポルトガル語・日本語の医療
用語ワンポイントレッスン
(15:30～講堂外 先着順)

日 時

1月13日(土)
13:30～16:30

先着順 受講料無料

講師

- ◆ 三浦 左千夫 (NPOマイケン理事長)
- ◆ Dr. George Ito (慶応大学脳外科医師)
- ◆ 岩本 弥生 (医療通訳)

会場

東京医学技術専門学校本校舎6階講堂
墨田区横綱1-10-8

お申込みお問い合わせ

NPO法人マイケン事務局

東京都八王子市元八王子町2-1935-7 <http://maikenbrasil.com/>

office_admin@maikenbrasil.com

真如苑Shinjoプロジェクト市民活動公募助成事業



MAIKEN
NONPROFIT ORGANIZATION
NPO法人 MAIKEN